

	<p>2004年5月15日 第42号</p> <p>発行：いたばし水と緑の会 事務局</p> <p>年会費 2,000円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会  <a href="http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/">http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/</a>  E-mail : <a href="mailto:mizumidori@nifty.com">mizumidori@nifty.com</a>  〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&amp;fax3969-7124</p>
---	--

## ホ オ ノ キ

### 峠道の高くかけられる朴(ほう)の花 富安風生

ホオノキは日本全土の山地や丘陵にみられ、日本一花や葉が大きい割りにあまり目立たない。この木はあまり群生せず、葉が高いところに着き、花も密集した葉の上に着くため見えにくい。冬枯れの林の中でも、滑らかな樹肌で太い枝を長く伸ばした堂々の姿だが、やっぱり目立たない。白っぽい大きな落ち葉や、太い棍棒のような落ちて実で、近くにあることを知らされる。嬉しいことに赤塚城址の梅林わきの一本は、幹が斜面から立ち上がり、小道にかぶさるように枝を垂らしているため、花を間近に見ることができる。私の楽しい観察ポイントにしている。

田舎育ちの私には、ホオノキの花・実・葉のどこを取っても楽しい遊びの材料だった。大きな葉に穴を開け、目・鼻・口をつければお面になったし、葉を巻いて底を折ればたちまちコップになった。枝先の葉を皮ごと抜き、逆さに刺して風車にと遊びは広がった。あの大きな花は花卉よりおしべの並び方が面白く、不思議でもあった。更に棍棒のような実の皮を破って出てくる赤い実も、白い糸を引くままごとの納豆になった。



## 16年度の活動に期待

いたばし水と緑の会 会長 鈴木 信子

連休も終わり、木々の緑も様々な色の変化を見せて、私達を楽しませてくれるシーズンになりました。

散歩コースの白子川も今年は桜の開花期間が長かったせいか、花いかだも例年より充分堪能しました。

5月4日には、橋の下をくぐるツバメの姿をはじめて見ました。

昭和の末の頃だったと思いますが、上赤塚町会の先々代の町会長小日向仲蔵氏と二人、成増出張所によばれて、板橋区の委嘱を受けたある研究機関の調査員に赤塚地区の街づくりについての意見を尋ねられたことがありました。私は即座に赤塚の森の中にゆったりとした気持ちで散歩できる道をつくってほしいと言った事を覚えています。車社会の到来で、希望は満たされませんでした。

赤塚の森の中に活動の拠点を置く水と緑の会がこれからも息の長い活動を続け、わずかに残された板橋区の自然を守るために力を尽くすことができるようにと心から願っております。

ホオノキは古名をホオガシワと呼び万葉集にも、柏として食べ物を盛ったことが歌われている。九州の椎葉地方には今もこの呼び名が残ると言うし、単にカシワや田植えの神事にサンパイシバやサンパイノキの名、葉の集まりから、キツネノカラカサ、冬芽の形からフデノキなどの方言もある。ホウやホオノキは、包や大柏の意からであろうとする学者もいる。

子供の頃、豆腐や蒟蒻を買いにいくと、ホオノキの葉で包み、藁(わら)で下げるように結んでもらったのを記憶している。今でも各地でホオノキの葉を用いて粽(ちまき)を作ったり、餅を包んだりしているし、高山地方の朴葉味噌や朴葉餅はあまりにも有名。

小学校4年生頃、初めて版画に取り組んだ時、緑がかった朴の板が良い匂いのするのを知った。何度も何度も学校の大工さんに鉋で削ってもらい、その香を楽しんだ。また、友達みんなで芹摘みをし、市で売ってもらったお金で買った卓球のラケットも朴の板で出来ていた。生意気盛りの高校時代は、どこへ行くにも厚い朴歯の下駄だった。

朴の材は緻密であるが細工がしやすく、建具や漆器の生地、箱や裁ち板、彫刻材にと利用は広い。特にピアノの鍵盤、刀の鞘はこの木が使われるとのこと。カタナギやカツナンサ

ヤギなどの名もある。

一方、樹皮を乾かし和産の厚朴(ホオノキは日本特産で、中国の厚朴に対して)として、健胃薬や駆虫薬として利用されたし、木を焼いた炭は滑らかで金銀を磨くときに使われるとのことである。

ホオノキの仲間には、どれも芳香のある大きな花を枝先に一個つける。コブシ・タムシバ・シデコブシ・オオヤマレンゲ・オガタノキに加え、中国産のモクレン・ハクモクレン・トウモクレン、北アメリカ産のタイサンボク・ユリノキなど、なじみ深く、よく公園や庭に植えられている。

ふくよかな丸みのある白の花は、神々しく白い蓮座に立つ観音をも思い起こさせる。散りゆく朴の花被をたとえ、朴散華などの造語も生まれている。花、実、葉、そして材に樹皮にと私たちの生活と結びついているホオノキの姿に驚くばかりである。(篠原 智男)

## 今年のカエル事情

地球の温暖化による暖冬が続いており、拙宅の小さな金魚池の結氷状態でも、その傾向を感じています。32年前に池を作ってからしばらくは、毎年ある期間大人が乗っても割れない程の氷が張り(冬は陽があたらないため)でしたが、最近は朝のうちだけ薄氷が張る日が何日かある程度(今年は15回ほど)です。

いつ頃からかヒキガエルが産卵に現れるようになり、毎年しばらくの間オタマジャクシを眺めています。多少でこぼこはあるが、周囲の宅地化が進むのにつれて現れる親蛙の数が増え、今年は10匹以上にもなりました。啓蟄前後か少し遅く、夜間の鳴き声で蛙の出現を知りますが、日陰の庭のせいか桜の開花などと、はっきりした関係はつかんでいません(記録をとっていない)が、今年は早く(2/22)に現れ、遅く(4/3)まで蛙が鳴いていたり、産卵も3回あり、その間が11日にも亘ったのが、これまでと違うように感じました。

今年、都内の公園で2月(季節はずれ)に蛙がはねていたのを見た、と新聞(4/17 読売・見晴台)に報じられていたが、早い出現に気づいた人が他にも居られたようだ。坂本さんから美術館横の赤塚自然池ができたから5年間の、蛙と卵の初観察記録を頂いたので、拙宅の庭の記録と合わせて表にしました。

赤塚自然池では、これまでも産卵が確認されながら、オタマジャクシになる前に消えてなくなるものがほとんどです。今年はオタマジャクシがみられたのですが、4月の半ばに全部いなくなりました。ザリガニや野鳥、放された大きな鯉(金魚は食わないんですが)などの外敵と、人間の子供などが考えられます。

自然界で生きていくということは、本当に厳しいんですね。(猪鼻 昭二)

## ヒキガエルとその卵初観察記録

年	自然池		徳丸6丁目の池	
2004	2/28 3/7 3/27 3/31	蛙がいて卵あり 同上 (3/31 乗蓮寺池に蛙1匹いた) 蛙がいたが、卵は消え失せた 20匹ほどオタマがいたが 4/19 消えた	2/22 3/7 4/3	蛙出現 産卵(3/19までに3回産む) 鳴き声が消える
2003	2/22 3/1	蛙がいた 蛙がいて卵があった	3.23 3/26	蛙出現 産卵
2002	3/2	蛙がいた	3/31	蛙いた(留守期間あり)
2001	3/4	蛙がいた	3/7 3/20	蛙1匹死体で発見 産卵
2000	3/5 3/20	蛙出現 卵あり		
1999			3/15	産卵
1998			2/28	蛙出現(産卵はあるも記録なし)
1996			2/28	蛙出現(同上)
1993			3/27	産卵

北野神社参道(の木)で今年もツミが営巣しています。

抱卵中ようです。いたばし野鳥クラブの人が望遠鏡で観察していましたので、のぞかせてもらいました。あんなに道路の近くに巣を作るんですね。伝承館の入り口の道端ですよ。溜池あたりでツミらしい鳥の鳴き声がしましたので、この近くでも繁殖している模様ですね。

猪鼻 昭二

## 赤塚トンボ池に荒川の水草を植えました

赤塚トンボ池には、3月頃から大きなコイがいます。2月にやっと大きなコイ数匹を捕獲したばかりなのでがっかりです。この池には、コイやザリガニなど強い生き物が多く、トンボの幼虫(ヤゴ)、オタマジャクシのような野生の小さな生き物には厳しい生息環境です。

5月15日(土)、みどりと公園課をお願いして荒川に水草採取に出かけました。河川敷の水路に生えている、ヨシ、キシユウスズメノヒエなどをスコップで掘り、池に移植しました。

コイやザリガニ(いずれも肉食で植物も食べる)がいる池で、ヤゴたちの隠れ家となる水草のジャングルに育ててほしい。あとは、人間に踏み荒らされないよう願うばかり(この踏みつけが強烈なのです)。

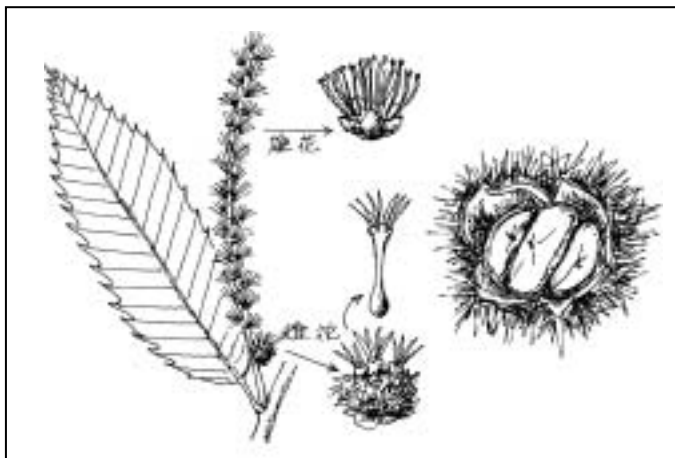


## 季節の観察メモ

# クリの花

世の人の見付けぬ花や軒の栗  
芭蕉

5月から6月にかけて、クリの花が咲き出します。長さ10～20cmの黄白色の花穂が、毛虫のように垂れ下がっていますし、散った花穂



も地面に群がるゲジゲジのようで、あまり美しいとは言い難いものです。何にもましてあの独特の臭いが人を寄せ付けないためか、可愛い栗の赤ちゃん(雌花)はあまり知られていないようです。

クリの花には、雄花と雌花があり、長い花穂は雄花の集まりです。雄花は4～5mmの長いおしべを持つ花の集まりが、尾状に連なってなかなか賑やかです。一方、雌花の集まりは、花穂の根元に1～2個ひっそりとしています。雌花は直径3mmほどの若い(総苞)に普通3個入っています。いが入った栗をそのまま小さくした姿です。この3つの花が実ったとき、あの艶やかな3つの栗になるのです。

栗の花時、枝をそっと手元に手繰り寄せ、クリの赤ちゃんを眺めてみてください(篠原智男)  
**栗の花に来る虫**

赤塚公園城址地区の北側入り口に栗の木が数本植えられている。5月半ば過ぎ、この栗に花が咲くと、色々な虫が集まってくる。この内2種類の昆虫を紹介しよう。

### アカシジミ

羽を広げると4cmたらず、モンシロチョウより一回り以上小さい、朱色のチョウである。高いところにいることが多いので双眼鏡を持っていくと良い。時期は5月半ばから6月半ば頃、花に来る時間は午後の方が多いうだ。このチョウ、花に来るときはゆっくり飛んでいるが、夕方そろそろ薄暗くなる頃、行動が一変する。クヌギなどの高い木のとっぺんを猛烈な勢いで飛び回るのだ。幼虫はクヌギやコナラの葉を食べる。

板橋区ではここ30年以上全く記録されなかったチョウで、最近再発見されたばかりである。細々と昔から生きていたのか、それとも最近、新座や所沢など遠くの雑木林から飛んできて、居着いたチョウなのか結論はまだ出ていない。

### オオスズメバチ

社会性のハチでは世界一大きいハチ、これが栗の花に蜜を吸いにやってくる。大きいだけ

に毒も強いし、攻撃性も強く、危険度ナンバー1のハチである。とはいえ、巣に近寄らなければ刺されることはほとんど無い。無闇に恐れる必要はないが、捕まえようとしたり、追い払おうとしたりすれば保障の限りではない。気づかずに接近遭遇したときは、じっとしているか、ゆっくりと後ろに下がれば良い。

蜜を吸うのはエネルギー補給のためで、幼虫のためには、色々な昆虫を狩ってきて食べます。ミツバチの巣を襲って全滅させるので、養蜂業者の大敵である。

社会性のハチにとっての最大の試練は、最初の働き蜂を育てあげる迄である。越冬から目覚めた女王蜂はたった1匹で、巣を作り、幼虫の餌を集めなければならない。野外でよく見るハチの小さな空巣はこの時期に女王蜂が死んでしまったものである。昆虫界一の強者オオスズメバチでも事情は同じである。板橋区でも毎年5月から6月ごろまではオオスズメバチが見られるが、夏以降は見つからない。去年は夏に働き蜂が採集されたので、どこかで営巣に成功したのであろう思っていたら、大きな巣が見つかり退治されてしまった(釣巻岳人)

## 平成15年度の活動を報告します

15年度の会員数は、個人会員59人および団体会員1団体で、14年度より6人減です。

会報は、年6回発行。部数各300部。会員のほか、広く身近な自然の大切さを理解してもらうための情報として、池掲示板ポスト、エコポリスセンター、植物園等の窓口等にも置いてもらっています。

### 具体的な活動

- (1) 定例観察会と清掃(毎月):赤塚城址周辺の四季折々の自然を観察
- (2) 赤塚トンボ池等の管理:15年度から環境保全課との協定書によりいたばし緑の会が自然地として管理することになった。移入生物捕獲、池広場側の樹木の伐採、水路の植生調査。水路にオニヤンマヤゴの生息を確認。
- (3) バッタ広場の管理(自然復元の実験と調査):植生調査、昆虫調査、樹木の伐採実験(4月に1m以上の木を伐採、11月に南半分の木を全て伐採、ササを根元から切った)
- (4) 赤塚公園自然発見ウォーキング:参加者30人。湧水、植物、昆虫について得意な人がガイドし、好評だった。
- (5) 徳丸が原公園(ピオトープ池の管理)
- (6) その他
  - 勉強会「自然管理について気になることをもう一度考える」(講師:三島次郎先生)。
  - 池管理勉強会(荒川野草園と水草観察池を見学。)
  - 梅まつり参加(3/6,7)パネル展示・モグラ・昆虫標本の展示。工作コーナー。

➤ 「落ち葉プール」の作り直し(3月)(最初につくったのは1997年)。

### 平成15年度会計報告

収入の部		支出の部	
繰り越し	229,491	通信費	48875
年会費(59人)	118,000	会場使用料	2400
年会費(団体)	6,000	消耗品	24145
寄付	10,000	備品	2793
参加費	2,100	保険料	1640
雑収入	1,002	その他	2507
		繰り越し	284,233
収入計	366,593	支出計	366593

### 平成16年度総会の報告

4月24日、赤塚5丁目集会所で総会を開き、15年度活動報告、会計報告が承認されました。16年度の活動については、アンケート結果をもとに話し合いました。

終わって会長さん差し入れのタケノコの煮物、浅漬け、泉さん差し入れのかりんとうやおつまみで、ビールも入って意見交換となりました。16年度の活動の内容については、

#### 毎月観察会に水質・水量・水温を測定することになりました。

トンボ池の水は湧き水ですが、季節により透明度が違います。不動の滝、池に流入する湧水の水量、乗蓮寺下の池の水質と水温を測定します。その他の観察した結果も記録として残します。

#### 会報に、「季節の観察メモ」を連載することになりました。

さっそく本号5頁「クリの花と花にくる虫」からスタートです。ご活用ください。

#### 池と周辺の自然管理について確認しました。

環境保全課との協定書に基づき自然地として管理します。自然地管理は、好き嫌いがあって、いつも方針がグラグラしますが、景観よりも自然にとってどうかという判断基準で管理するという意味です(ピオトープをつくった区の方針でもあります)。

勉強会で三島先生から「ザリガニ捕獲は効果がないのでは」、という疑問が出されました。ザリガニをとらないで放っておいても変わらないかもしれません。「ザリガニを取らなければならない池」に終始しないよう、考えなければならない時期かも。

#### バッタ広場、トンボ池・水路等の自然は引き続き調査します。

#### その他

- ・ 植物園の顕微鏡を借りて実習したい(池の水のプランクトンや植物のつくり)植物園の講義室の前期は予約でほぼいっぱい。後期にご期待ください。
- ・ 他の自然保護活動団体の見学や交流を持ちたい。

- ・年に何回か徹底清掃が必要。

## 活動のお知らせ

**運営委員会は毎月第1金曜日です。どなたでも参加できます。**

6月運営委員会： 6月4日(金) 18:30～20:30

5月運営委員会： 7月2日(金) 18:30～20:30

**いずれもエコポリスセンターです。**

**会報の印刷・発送は奇数月。お手伝いできる方は応援よろしく**

日時：7月15日(木) 18:00～ 場所：エコポリスセンター

**活動の問い合わせは瀬田まで(3969-7124)**

毎月第4土曜日が定例の活動日です。この日は、赤塚や徳丸が原公園で私たちが作った自然の場所を中心に午前中は自然観察とゴミ拾い。必要な修理等があれば午後行います。観察会は原則として雨天も実施します。

### 5月の定例観察とゴミ拾い

水質、水温、湧水量を調査からはじめます。湧水の流入が止まっていて池には今年始めてプランクトン(アオコ)らしきものが見られます。水源は湧水ですが、水も汚れてきているようです。今回は、携帯用実態顕微鏡を持っていき、プランクトンが見えるかのぞいてみましょう。

日時：5月22日(土)10:00～12:00 集合場所：美術館前トンボ池

持ち物：軍手、ルーペ(あれば) 雨天の場合：実施します

### 6月の定例観察とゴミ拾い

日時：6月26日(土)10:00～12:00 集合場所：美術館前トンボ池

持ち物：軍手、ルーペ(あれば) 雨天の場合：実施します

### バッタ広場植生調査

バッタ広場のありふれた植物を調査しています。だんだんイネ科植物が多くなってきました。チガヤ、カゼクサ、チカラシバ、カモジグサ、それに昨年からススキが増えてきました。どれが、どれ？みんなで図鑑を見ながら、花が付いていなくてもわかるとうれしい。興味のある方一緒にやりませんか。希望者は事務局まで。

**みなさんに配った植物調査シート活用してね。**

**いたばし水と緑の会に参加し、一緒に身近な自然を観察し、保全しませんか**

いたばし水と緑の会は、会員の会費で運営しています。会報の印刷費、通信費、看板、自然管理に必要な器材・消耗品・イベントなどの材料などの経費に充てています。

あなたも会員になって、活動に参加し、会をサポートしてください。

事務局：瀬田 3969-7124

年会費：2000円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会